



看護師  
隅倉 萌

# 新生児センターについて

梅雨明けが待ち遠しく感じられる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は新生児センターで早産児・低出生体重児や呼吸のサポートが必要な赤ちゃんたちが入院している病棟で勤務しています。当院の新生児センターはNICU(新生児集中治療室)とGCU(継続観察室)で成り立っています。待ちに待った出産後に突然赤ちゃんが新生児センターへ入院となったら、ご両親はとても心配されるのではないでしょうか。今回、新生児センターとはどんなところなのか、どのような治療・ケアを行うのかなど新生児センターについてご紹介します。

## NICU(新生児集中治療室)について

NICUは、早く生まれた赤ちゃん、小さく生まれた赤ちゃん、呼吸の助けが必要な赤ちゃん、その他の治療が必要な赤ちゃん達が入院するお部屋です。入院してきた赤ちゃんは保育器でお預かりします。必要に応じて人工呼吸器や点滴を行い、赤ちゃんの状態をみるための心電図モニターなどが身体につけられており24時間体制で見守っています。保育器の中は赤ちゃんにとって過ごしやすい環境になっています。赤ちゃんはそれぞれのペースでゆっくりと成長し、やがて保育器を卒業してコット(新生児用ベット)へ移ります。



モニター:赤ちゃんの心拍や呼吸の状態をしっかりと異常を知らせます

輸液ポンプ:栄養やお薬を投与します

人工呼吸器:呼吸のサポートをします

保育器:赤ちゃんの体温を一定に保ったり外のバイ菌から守ってくれます  
閉鎖型と開放型があります

赤ちゃんは子宮の羊水の中で、背中を丸め、手足を折り曲げた体勢でいます。早産で生まれた赤ちゃんは、まだ筋力が弱く、子宮の外では自分で同じ体勢になることができないため、保育器の中で専用のポジショニングマットを用いて、なるべく子宮の中にいたときと同じような体勢が保てるように配慮しています。また作業療法士や理学療法士が診察を行い、赤ちゃんに合わせたポジショニングやリハビリを行っています。

赤ちゃんが光に反応できるようになるのは在胎32～33週以降、耳が音の刺激に反応できるようになるのは在胎28週頃といわれています。それまでの過剰な光や音は、赤ちゃんのストレスになります。そのため、日中は明かりを調整し、夜は消灯し、また保育器に暗幕をかけて、光や音の調節を行っています。

在胎34週未満で産まれた赤ちゃんには母乳の口腔内塗布も行っています。感染予防の効果と母乳の匂いや味により赤ちゃんに安心感を与えられる効果があります。

## GCU(継続観察室)について

GCUは、NICUを卒業した赤ちゃんや、軽度の感染症、黄疸の赤ちゃんが治療を受けるお部屋です。入院してきた赤ちゃんは開放型保育器やコットでお預かりします。なるべく早く抱っこや直接母乳ができるように、症状に合わせてケアを行い、退院への準備をしていきます。「授乳待機室」と「ファミリールーム」があり、育児指導や母児同室を行っています。退院前に、赤ちゃんと一緒に過ごすことで、家に帰ってからのイメージが付き、少しでも不安の軽減につながればと思います。



## 産前訪問について

切迫早産で入院されている病棟の妊婦さんを対象に、新生児センターの看護師が、直接病棟を訪問しています。新生児センターが一体どんな所なのか想像がつかないとおっしゃる方もいます。赤ちゃんが入院する環境を見ることで少しでもお母様に安心してもらい、出産前後の不安が少しでも和らぐようにとの思いから、新生児センターについての紹介を、新生児センター内の様子がわかるアルバムや赤ちゃんの成長記録である育児ノートを用いて説明しています。特にNICUでは、特殊な医療機器を使用することが多いので、アルバムでの写真をご覧になることで、新生児センターがどんな所なのかイメージしやすくなります。

## 育児ノートについて

育児ノートとは、赤ちゃんが新生児センターに入院中にスタッフとご両親の間で行う交換日記のようなものです。当日の受け持ち看護師や担当看護師が赤ちゃんの体重・ミルクの量や1日の様子を記載します。また、育児ノートへはご両親も自由に書き込むことが出来るようになっており、スタッフとご両親のコミュニケーションツールの1つでもあります。育児ノートの中には、NICUがどのようなところか、NICUで使用されている医療機器類などイラストを用いてわかりやすく説明しています。

赤ちゃんが初めてお母様に抱っこされている様子や、初めて沐浴をした様子などのイベント時には写真を貼付しており、赤ちゃんの成長の記録になります。

## 入退院支援専従看護師について

新生児センターには退院や転院にあたって支援する看護師が常勤しています。基本的にはNICUに入院された赤ちゃんとご家族を対象としていますが、GCUに入院された赤ちゃんでも長期入院や多胎児(双子や三つ子)でお家に帰ってからの生活でお手伝いが必要な赤ちゃんのお母様にお声かけさせていただきます。

## お話しさせていただく内容

- かかりつけの小児科について(紹介状を発行させていただきます)
- 県外からの出産の方は帰省の時期のご相談
- 予防接種開始時期について
- 発達・発育のフォローアップ外来について
- 保健師や退院後の連携機関との調整
- 産後ケア事業の紹介
- 他院紹介(退院後の受診)について
- 自宅でうけられる社会資源の活用について(社会福祉士との連携)



新生児センターには医師、看護師、病棟保育士、看護アシスタント、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、社会福祉士、公認心理師、臨床工学技士など様々なスタッフが勤務しており、大切な赤ちゃんをお預かりしています。新しい家族の一員となった赤ちゃんが、健やかに成長できるように、またご両親の不安を少しでも軽減できるように、スタッフ全員で1つのチームとなり、これからも日々の看護に取り組んでいきたいと思っております。